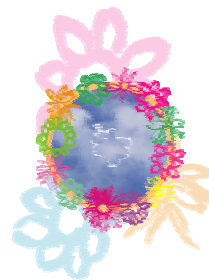


子どもを虐待から守る会・まつもと

News Letter *～No.4～*



発行：子どもを虐待から守る会・まつもと事務局 平成18年4月

2006年度 定期総会報告



3月5日は、記念講演に引き続いて2006年度の定期総会が開催されました。総会では2005年度の事業報告と決算並びに2006年度の事業計画と予算が承認されました。新年度の事業としては、前年度に引き続き講演会、公開講座、学習会、会員交流会、司法関係会員の児相懇談会、行政のMCGへの援助を行うほかにサマーキャンプに取り組むことも決まりました。会場からの意見として会員参加型の企画の希望が出され、理事会としてもどのような企画が相応しいか苦心しているところです。これからも全員の総意を大事にしながらすめていきたいと考えております。

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成事業

第4回公開講座 大日向 雅美氏 講演記録

「子育て支援が親をだめにするなんて言わせない」



1 大日向さんは、育児に不安やストレスをためて苦しんでいる母親たちの生の声を聞き、子育て支援の必要性を長年訴えてきた。また、東京都港区でスタートした「子育てひろば あい・ぼーと」の施設長として現場にスタンスを置こうとする。そして、母親一人が育児に専念することを強調してきた伝統的な子育て論から解放されて皆で子どもの育ちを見守り支える仕組みを構築するために、子育て支援が行われる必要性があると説く。

2 大日向さんは、長年にわたる母親からの聴取調査の中から、「こんなはずではなかった」と表現する女性の声を取り上げる。

まず、専業主婦の声。「一人の時間がない」「体のつらさ」「話し相手がいない（夫がその機能を果たさない）」「社会から取り残されていく。」

次に働く主婦の声。「仕事も子育てもみんな母親の肩にかかってくる」「母親が働いていると子どもがゆがむ（＝3歳児神話）と言われる。」

大日向さんは、「母親の悩みの根源は夫か？」という問いかけをする。何故わが国の男性は育児にかかわらないのか。夫の言い分は「育児をしたくてもできない」「育児休業をとると出世を諦めたのかと言われる」「どうして男が育児をしなければならないのか」「いざという時が父親の出番だ」などである。

これらを見た上で、家族・地域・皆で子育てを支えることが必要であると述べる。その中で、仮面妻について触れ、一番信頼すべき家庭の中で仮面をつけるのか、仮面をとるときにどういうとり方をするのか、これが幼い子に向き虐待になるという児童虐待の場面のひとつを紹介された。

- 3 大日向さんは文科省・厚労省・内閣府の審議会委員に就きわが国の少子化対策に取り組まれてきている。わが国の日常社会のあり方についても話が及んだ。日欧の父親の育児休暇の取得率の高低や結婚退職した女性の復職時の働きの場のあり方を比較し、まだまだわが国の社会が遅れていることを統計値に基づいて指摘した。私たちの活動は社会を変えることでもあると考えさせられる講演会であった。

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成事業

第3回公開講座 百瀬 章恭氏 講演記録

（1月18日）

『（非行少年だった）子どもたちを社会へ』

”やり直しのきく社会、私たちのすべきことは”

虐待と非行、一見すると別の問題のようにも思えるのですが、子どもの視点から見れば、私をもっと見て、もっと理解して、愛して・・・と訴える心が通じない環境要因が大きく関与していることは共通問題と言えるようです。講演会は40分間のお話のあと、『トクダネ！インサイドウオッチ』で放映されたビデオを見ました。青少年更生保護施設の重要性は誰もが認めるものでありながら全国に3つしかなく、その運営も職員の善意に負っている面が大きいという事実。百瀬さんたちが少年達の更生のために寝食をともにし、体当たりでぶつかって、支援していらっしゃる姿は心打たれるものでした。百瀬さんは本当にエネルギッシュな若先生です。

家庭・学校・社会の中で『失敗しても何があっても大丈夫、お母さん達（周りの人たちは）はあなたを信じているし愛しているよ。』『でも、これはしてはいけないこと。あなたのこの行為は悪いこと。』この両方の価値観を共通に持って子ども達に接していかないとやはり道は外れていってしまうでしょう。その時苦しむのは、一番は当事者の子ども達です。更生施設の中で、自分と向き合い、いくつもの厳しい試練に耐え、この次こそ・・・と歩み出そうとしている少年達。それを受け取る家庭・社会は、少年達の努力に応えているのでしょうか。私たちがしなくてはいけないこと、課題は、本当に多そうです。



2月学習会

『長野・諏訪地区の活動について』

（2月15日）

～ 宮原則夫氏・鷲澤一彦氏をお招きして ～



この日の学習会には、県内で既に活動されている「CAPS・すわ」の代表 宮原則夫さんと、「ながの子どもを虐待から守る会」の前会長 鷲澤一彦さんに講師として参加していただき、主に当会の来年度以降の活動について意見が交わされました。

最初に宮原さんと鷲澤さんからそれぞれの会についての報告があり、それから意見交換へと入りました。

「CAPS・すわ」の現在の活動としては、主に学習活動や虐

待防止活動、その他に虐待防止研修会への講師派遣などを行っています。電話相談活動「ほっとライン CAPS・すわ」が昨年休止にいたった経緯として、宮原さんは相談件数の減少、相談員の不足などを挙げていました。また、今後の課題として例会への会員の参加をどのように促していくか、皆が参加できる活動をどのように企画していくか、という2点が出ましたが、これはそのまま当会の抱える課題でもあります。民間人である我々が虐待というものにどのようにアプローチしていくかは、やはり難しい問題だなと感じました。

「ながの守る会」では、啓発活動、ワークショップやケース検討会、相談活動などの現在行われている活動に加えて、虐待する親への支援（県のMCG活動・親ケアの研修など）、ブックレットの発行・販売、市町村ネットワーク作りへの協力、企業への「父親の育児参加」の働きかけ、などを検討しているとのことでした。活動資金については、一つには会員から助成金の情報を募ってできる限り申請すると言われていました。会の活動を拡げていくために、我々もさらに努力しないといけませんね。

まだ2年目に入ったばかりの当会としては、「CAPS・すわ」や「ながの守る会」の背中を追いかけるなかで「守る会・まつもと」らしい活動を見つけていきたいと思います。せっかく県内に虐待防止に関する民間団体が複数あるのだから、今後一緒に催しや講演会を開いたりしてもいいのではないのでしょうか。

理事紹介 [上小路 照江]

県外で5年余りを虐待の相談活動に関わり、多くの人が子ども時代に受けた心の傷に、今なお辛い思いをしている現実と直面しました。養育者の不適切な対応によって傷つく子どもが一人でも少なくなることを願ってこの会の活動に参加しています。子どもに自分が悪いからだと思わせないように、大人が変わる努力をしましょう。



おすすめの一冊 『「子育て支援が親をダメにする」なんて、言わせない』

いま、子育て支援の活動が全国各地で展開されている。しかし、その実態はさまざま。疑問視する声さえ聞かれるという。子育て支援はそもそも、だれのため？ なんのためなのか？ 長年、聞き取り調査を積み重ね、母性愛神話という社会通念がいかに母親たちを追い



つめているか指摘してきた著者は、「子育て支援は、親支援」と言い切る。その実践の場とも言うべき、子育てひろば あい・ぽーと が東京港区でスタートした。施設長として現場で実感する手応え、そして困難……。本書は、改めて支援の理念を原点から見つめ直し、それをどう実践していくのかを綴った挑戦の記録、子育て支援に携わるすべての人への励ましのメッセージである。

大日向 雅美 （1,600円＋税）岩波書店



本年度の活動予定

公開講座は一般公開、学習会は会員限定になります。

4月	理事会
5月17日（水）	交流会
6月	理事会
7月19日（水）	学習会（未定）

お知らせ

- ・ 1月～3月の理事会議事録を同封致します。
- ・ 各講演会（森田ゆり氏、矢満田篤二氏、奥山眞紀子氏、百瀬章恭氏）をビデオ録画しており、貸し出し可能です。借りたい方は事務局までご連絡下さい。
- ・ 本年度、ニュースレターやチラシの作成・印刷・発送、ホームページ作成をお手伝いしていただける方を募集します。パソコンが堪能な方、この分野がお好きという方、是非事務局までFAX下さい。
- ・ 本年度分(H18.3/1～H19.2/28)の会費を集金させていただきます。振り込み用紙にてご入金下さい。振り込み完了を確認いたしまして、次回ニュースレターや御案内チラシを送らせていただきます。
- ・ 総会時にご提案頂いた、会員の皆様の参加形態を検討すべく、アンケートを行わせて頂きます。忌憚のないご意見よろしくお願い致します。また、同時に名簿作成の為の資料もアンケートさせて頂きます。
- ・ 新しいリーフレットが出来上がりました。事務局に保管してありますので、お仲間にお配りしたいときは、事務局までご連絡下さい。

会員募集について

子どもを虐待から守る会・まつもとでは、活動に参加して下さる新規会員を募集しています。私たちと一緒に活動しませんか。入会・活動内容に関するお問い合わせはFAX：0263-28-6882、事務局090-3235-9726（留守電）までお願いします。

〔年度会費〕	個人正会員	3,000円	学生会員	1,500円
	賛助会員	一口 3,000円	団体正会員	30,000円
〔振込先〕	郵便局口座	00560-1-79660		
	加入者名	「子どもを虐待から守る会・まつもと」		

編集後記

あいちゃんとしゅんくんは同級生。今日は小1最後の野外農園授業。
はるみつけ・・きょうは、はるみつけにいったよ。いろいろな花がさいていました。
うめの花やほとけのざがあったよ。ほかにもあったよ。みんなきれいだったよ。ブロッコリーもとったよ。ブロッコリーは1人2コとったよ。わたしは大きいのと小さいのをとったよ。みんなすごく大きいのをとっていたよ。いちばん見つけやすかったのは うめのはなだったよ。たのしかったよ
小さな種も光あれば光を目指します。それは自ら備わった“内なる力”、こどもたちもしっかり持ってます。春に旅立ちいま春最中、『守る会』も2年目に。会員みんなの想いを行動として現わし、こどもたちへ一歩前進！そんな願いの News Letter 第4号 です。

ニュースレター第4号は、当初3月末発行の予定でしたが、アンケートを同時に行いたいということで、遅れての発行になりました。お詫び申し上げます。

子どもを虐待から守る会・まつもと事務局

〒390-0827 松本市出川 2-24-14

Tel 090-3235-9726

Fax 0263-28-6882

e-mail: mamorukai@hotmail.co.jp

URL: http://www.geocities.jp/kodomo_mamoru/